

事例3 身近な商品を通して考えさせる課題追究学習と評価の工夫

1 ねらい

この事例では、「市場経済のしくみ」の単元において、身近にある様々な商品から課題を発見させたり考えさせたりする活動を通して、生徒の思考力、判断力を育成することを目指した。授業の導入部で生徒の興味・関心を高めたり、社会事象等の説明を具体的に分かりやすく行ったりするため、多数の写真パネルを自作して活用した。また、新聞記事や広告などを材料に、経済活動について生徒に考えさせるとともに、何らかの疑問や課題意識をもって「現代社会」の学習に臨むように促した。そして、学習の成果を適切に表現できるかどうかを記述式の問題で評価することを試みた。なお、授業実践は第1学年を対象に行った。

2 授業実践

(1)単元名 市場経済のしくみ

(2)単元の目標

市場経済のしくみや現代の市場経済の状況について関心を高め、見いだした課題について様々な資料を活用して多角的・多面的に考察させるとともに、基本的な知識を身に付けさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
市場経済のしくみや現代の市場経済の状況に対する関心を高め、課題を見だし追究しようとしている。	市場経済のしくみや現代の市場経済の状況について、多角的・多面的に考察している。	収集した資料の中から、市場経済のしくみや現代の市場経済の状況についての学習に役立つ情報を、主体的に選択して活用している。	市場経済のしくみや現代の市場経済の状況について理解し、基本的な知識を身に付けている。

(4)指導計画

1 時間目 市場経済のしくみと市場の失敗

2 時間目 独占・寡占、価格の決まり方を考える

(5)実践の概要

市場経済の基本である需要と供給についての、生徒の理解状況を把握するとともに、生徒の学習への意識と関心を高めるために、次のような「事前アンケート」を実施した。

質問	人気のある携帯は、価格が()。
質問	観光旅館の宿泊料金は、平日よりも週末のほうが()。
質問	みかんが豊作だった年は、みかんの価格は()。
質問	なぜそうなるのか... それは普通、モノやサービスの価格は、()時に価格が上昇し、()時に価格が下がるから。
解答例	高い 高い 安い 需要量より供給量が少ない(他に...品不足・人気があるなど) 需要量より供給量が多い(他に...品余り・人気がないなど)

結果は以下のとおりである。

ともに正解...39名中36名（完全正答率92.3%）

ともに正解.....39名中25名（完全正答率64.1%）

については、実体験からなんとなく分かるが、なぜそうなるのかという法則は理解できていない生徒が多い。中学校で需要と供給の関係については学んできているが、需要と供給を反対に覚えている生徒も多く、また、需要側の感覚は理解しているが、供給側の感覚は理解できない様子がうかがえる。

事前アンケートの結果を踏まえて、1時間目は、需要と供給について分かりやすく説明した。自作パネルを用いて、親しみやすく具体的な説明になるように心がけた。

《1時間目》

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
導入	10分	・本時の学習内容について、事前アンケートの結果を聞きながら確認する。	・事前アンケートの結果を発表し、生徒の予備知識の状況を知らせる。	
展開	30分	・市場と市場価格について理解する。 ・需要と供給の法則について、パネルを見ながら教師の説明を聞き、理解する。 ・伸縮的な価格と固定的な価格について理解する。	・みかんの写真と生徒の顔写真とのパネルを使用し、生徒の興味・関心を高める。 ・発問を多く行い、教師の説明に終始しないよう留意する。 ・顔写真の使用については十分に配慮し、当該生徒に事前の承諾を得る。	・市場経済のしくみについて理解し、基本的知識を身に付けている。 【知識・理解】 〔発問、テスト〕
まとめ	10分	・本時の学習を振り返る。	・自分の興味のある新聞広告を、次回持ってくるよう指示する。	

以下は、使用したパネルの一部及び授業の様子である。



年度当初より、「現代社会」の授業ではほぼ毎時間、その日の学習内容に関する画像のパネルを作成して活用した。主に授業の導入において、生徒の興味・関心を引き付けて授業に引き込むために使用することが多いが、本実践の1時間目のように、生徒にとって抽象的で理解しにくい概念を説明する際に用いることもあった。パネルに使用する写真等には、主にインターネット上におけるオープンコンテンツである「ウィキペディア」に掲載されている画像を利用した。画像をA3判サイズに拡大し、厚紙の台紙に貼り付けた。「ウィキペディア」では、それぞれの項目に関して画像が添えられていることが多く、オープンコンテンツであるため、文章・画像などの創作物が共有した状態に置かれ、複製や改変などについての制約がかけられていないので、手軽に利用できるというメリットがある。ただし、記載内容は全て正しいとは限らないため、利用にあたっては十分に注意する必要がある。

《2時間目》(導入は省略した)

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画〔評価方法〕
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> ・独占・寡占について、パネルを見ながら教師の説明を聞いて理解する。 ・企業が価格を管理しようとするのはなぜかを考える。 ・独占禁止法と公正取引委員会の役割について理解し、その目的を考える。 ・グループを作り、持ち寄った新聞広告の商品やサービスの価格を見て、需要と供給の関係が影響している価格について考える。 ・価格がどのように決められるのか、疑問に感じることを出し合う。 ・グループごとに、考えた結果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム機やビールのパネルを使用し、生徒の興味・関心を高める。 ・これまでの学習内容を踏まえて、商品やサービスの実際の価格の決めり方について、疑問をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の市場経済の状況に対する関心を高め、課題を見だし追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】 〔観察、発表〕 ・市場経済のしくみや現代の市場の状況について、選択した資料を活用して多面的・多角的に考察している。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 〔ワークシート、発表〕
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返る。 		

2時間目では、まず、独占と寡占、独占禁止法、市場の失敗について基本的な内容を説明した。独占・寡占については、ゲーム機とビールの写真パネルを用いて生徒の興味を引き付け、身近で具体的な事例を取り上げた。

使用したパネルの一部及び授業の様子は以下の通りである。



次に、5人程度のグループを作らせ、各自が持ち寄った新聞広告を見て、掲載されている様々な商品やサービスの中で、需要と供給の関係から価格が決まったと考えられるものは何かを考えさせた。生徒が持ってきた広告は多種多様であったが、価格機構のメカニズムが働いていると考えられるのは、ほぼ生鮮食品に限られた。ただし、生鮮食品でも、曜日や時間を限った安売り等が頻繁に行われているため、純粋に需要・供給から価格が決まるケースは、実際にはほとんどないことが分かった。

その後、新聞広告の中から、価格に関して気付いたことや疑問に感じることを出し合って考えさせた。生徒からは、次のように、売り手(供給)側が様々な商品を安売りしていることに着目した意見が多く出された。

「『A社』の特売で、ふだんより1000円も安く売るのはなぜか。損をしないのか。」
「通販で売っているものは安いと思う。」
「日にち(曜日)限定で、とても安く売っているものがある。」
「『B社』はどうしてこんなに安いのか。」
「2つとか3つまとめて買うと、1つあたりの値段が安くなることもある。」

これに対して、その理由について考えるよう促したところ、次のような意見が出された。

「安売りを宣伝してお客さんを多く呼ぶ。」
「店に来れば安売りではない物も買ってくれる。」
「大量に仕入れるので安く売ることができる。」
「広告に載せていないもので利益を出そうとしている。」
「安くした分多くの人を買ってくれれば利益がでると思う。」
「安い分まとめ買いするので結果的には店がもうかる。」

需要・供給という言葉を使って説明できた生徒はいなかったが、広告が消費者の購買意欲を刺激して需要を高めることをねらったものである、ということはおおむね理解している様子が見られた。ここでは、経済分野の単元の導入的な内容であることから、深く追究させることより

も、生徒が「価格」を題材として経済活動に自ら課題を見いだすことや、以後の学習への興味・関心を高めることに重点をおいた。新聞広告は身近なものだが、普段はじっくり見ることが少ないためか、生徒は新鮮に感じた様子で活発に意見を出し合っていた。

(6)ペーパーテストによる評価

「市場経済のしくみ」の単元に関し、定期テストにおいて次のような問題を作成した。

【3】市場経済のしくみについて、次の文を読み、問いに答えよ。

市場経済では、需要量が供給量を上回るときには価格が()し、供給量が需要量を上回るときには価格が()する。このように需要量と供給量の間には差があるときには価格の変化を通して品不足や品余りが自然に解消される。需要量と供給量を一致させる価格は()価格とよばれる。

(価格)

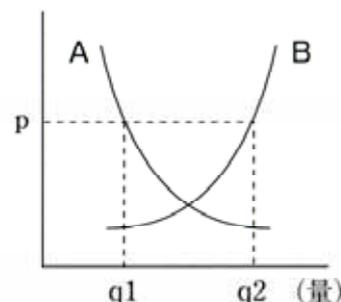


図1

問1 文中の() ~ ()にあてはまる語句を答えよ。

問2 文中の下線部を何というか。

問3 図1で、供給曲線はA・Bのどちらか。

問4 図1で、価格がpのとき、どのようなことが起きるか、簡潔に説明せよ。

問5 図2は家電量販店の新聞広告の例である。この広告を出した売り手(供給)側の意図・目的を、「需要」と「価格」の語を用いて説明せよ。

図2

全館一斉大幅値下げ!
今だけのスペシャルプライス
32型デジタルハイビジョン液晶テレビ
 先着5台限り 168,000円 128,000円
HDD内蔵ブルーレイレコーダー
 在庫限り 77,800円 47,800円
12月1日から12月31日まで
 期間中、毎日抽選で20名様に
 5千円分の金券プレゼント!
電機

問6 次の文章は、ある新聞記事の要旨である。これを読んで下の各問いに答えよ。

タイトル「ゲーム機の液晶パネルでカルテルか」
 「C社」のゲーム機の液晶パネルをめぐる、価格カルテル()を結んでいた疑いがあるとして、
 []は、液晶パネルメーカー2社に立ち入り調査を行った。
 []が立ち入り調査を行ったのは、「D社」と「E社」。「C社」は、この2社から液晶パネルを購入していたが、2社が話し合いを行って価格を決めていた疑いが持たれており、
 []は、独占禁止法に違反する恐れがあるとみている。
 価格カルテル...少数の大企業が、価格協定を結ぶこと。

(1) []にあてはまる組織名を答えよ。

(2) この事例は、消費者にとって不利益が生じるケースだが、具体的にどのような不利益が生じると考えられるか、簡潔に答えよ。

問7 寡占市場の特徴の記述として、誤っているものを次から1つ選べ。

ア 少数の大企業による寡占状態においては、商品デザインの差別化などの非価格競争が生じやすい。

- イ 少数の大企業による寡占状態においては、宣伝・広告による消費者への情報がゆがめられやすい。
- ウ 少数の大企業による寡占状態においては、供給が過剰になったり、生産費が安くなったりすると、直ちに価格に反映されやすい。
- エ 少数の大企業による寡占状態においては、プライス・リーダーによる価格設定に他の企業が追随する管理価格が形成されやすい。

【解答例】

- 問1 上昇 下落 均衡
- 問2 (価格の)自動調節機能(「神の見えざる手」も部分点)
- 問3 B
- 問4 $q_2 - q_1$ の売れ残りが起こり価格が下がる。
- 問5 価格を下げることによって、需要を高めて商品が売れるようにする。
- 問6 (1) 公正取引委員会
(2) ゲーム機の価格が下がりにくくなるおそれがある。など
- 問7 ウ

今回の問題では、単純な知識だけでなく思考力、判断力、表現力を問う問題として、問4、問5、問6の(2)を作成した。各問の正答率は以下のとおりである。

問1	92.3%	92.3%	94.9% (未記入3名)
問2	33.3%	(未記入4名)	
問3	71.2%		
問4	30.1%	(未記入8名)	
問5	65.3%	(未記入8名)	
問6 (1)	84.5%	(未記入2名)	
(2)	66.7%	(未記入7名)	
問7	38.4%		

問1、問3、問6の(1)のように、基本的な知識を問う問題は正答率が高く、生徒の努力の結果が見てとれた。しかし、問2、問4の正答率が低いことから、「価格の自動調節機能」について理解が十分でなく、グラフから供給超過を読み取り説明することができない生徒が多いことが分かった。需要と供給についての基本的な理解やイメージはあるが、理論的、抽象的な概念として定着していないことがうかがわれた。

問5は、新聞広告を題材とした課題追究学習を踏まえて、学習の成果を適切に表現させる問題として設定した。授業では、安売りの理由について考えたものの、需要・供給といった語を用いて説明するまでには至らなかった。そこでテストでは、広告の意図を、「価格」と「需要」という語句を使用して適切に記述できるかどうかを問うた。生徒の主な解答は次のとおりである。

(正答)「売り手は、今だけに限定して価格を下げて、需要を増やそうとしている。」
「価格を下げると、買う気になる人が増えるので、需要量が増える。」
「価格を下げたり金券をプレゼントしたりして、いろいろな方法でお客さんを呼び、需要につながるようにしている。」

(部分点)「ボーナスの時期に合わせて価格を下げて、売り上げを増やそうとしている。」
「12月は需要が増える時期なので価格を下けている。」
(誤 答)「ボーナスが出るので、値下げすれば高いテレビなども売れるから。」
「5000円プレゼントで価格よりもっと安く買える気になる。」

生徒は、図2に示された情報をもとに、授業で話し合ったことを思い出しながら、指定された用語をどのように使って表現するかを考えていた。価格を下げることと需要が高まることの間連が正しく記述されていれば正解とし、6割以上の生徒が正しく記述することができた。部分点の生徒の解答をみると、「需要」の語を正しく使用することができなかつたものが多く、誤答の生徒は指定語句を使っていなかったり、問題の意図に沿っていなかったりするものが多かった。

問6の(2)では、7割近くの生徒が、新聞記事の内容を踏まえて、消費者が受ける不利益について具体的に説明することができた。

一方で、寡占市場に関する説明文の正誤を判断する問6は、予想外に正答率が低かつた。授業で非価格競争等について十分に説明できなかつたことも一因であったが、正確な理解や知識の確実な定着という点で課題が見られた。

ただし、記述式の問題をいつもより多く取り入れたにも関わらず、未記入の解答は少なく、普段の授業に対する姿勢と同様に、テストにも前向きに臨んでいたことが分かつた。

(7)授業アンケート結果

授業実践後にアンケートを実施した。質問項目及び結果は以下の通りである。

4：あてはまる 3：おおむねあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない
自己評価

(1)授業内容を理解できましたか。

4... 17名 3... 19名 2... 2名 1... 0名

(2)自ら進んで学べましたか。

4... 6名 3... 25名 2... 7名 1... 0名

(3)楽しく学習ができましたか。

4... 23名 3... 15名 2... 0名 1... 0名

(4)資料集は活用していますか。

4... 2名 3... 7名 2... 17名 1... 12名

(5)授業後の復習はしていますか。

4... 0名 3... 8名 2... 25名 1... 5名

授業評価

(1)授業内容は分かりやすかつたですか。

4... 25名 3... 12名 2... 1名 1... 0名

(2)話し方は明瞭で聞き取りやすかつたですか。

4... 31名 3... 7名 2... 0名 1... 0名

(3)板書は分かりやすかつたですか。

4... 31名 3... 7名 2... 0名 1... 0名

(4)先生からの質問は適切でしたか。

4... 21名 3... 17名 2... 0名 1... 0名

(5)興味・関心もてる授業でしたか。

4... 23名 3... 13名 2... 2名 1... 0名

授業に対する感想（自由意見）

- ・パネルがあるので、授業内容が理解しやすかった。
- ・ビールやゲーム機を例に挙げているので、身近な感じがして理解しやすかった。
- ・話が面白くて良かった。
- ・授業が楽しいからやる気が出る。
- ・ずっと書いていることがなく、ちょっとした談笑などがあるので良い。
- ・パネルの量が多ければ多いほど、興味がわく。
- ・分かりやすくて楽しい。
- ・具体例を示すときに、パネルは分かりやすい。
- ・たまに、授業が早く展開しすぎて追いつけないときがある。
- ・中学校の時に学んだときは分からなかったが、今回でかなり理解できた。
- ・板書がとても書き写しやすく、分かりやすかった。充実した授業だったと思う。

の自己評価については、「授業内容を理解できたか」「楽しく学習できたか」という質問に対し、肯定的な回答がほとんどであった。特に、「自ら進んで学べたか」という質問に対して、38名中31名が肯定的な回答しており、多くの生徒が主体的に学んでいると感じていることが分かった。この、教師に対する授業評価についても、「分かりやすいか」「興味関心がもてるか」という質問に対して、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしている。自由記述にも「パネルを使うと理解しやすい」「興味がわく」等とあるように、自作パネルを活用することが、授業への高い評価につながっていると考えられる。また、「先生からの質問は適切か」という質問に対して全員が肯定的な回答をしていることから、適切な発問が、生徒の授業に向かう気持ちをそらさず、また生徒の思考を促している様子がうかがわれた。

3 まとめ

(1)成果

生徒にとって身近な商品をパネルという目に見える形で提示したり、新聞や広告などを活用したりすることにより、生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見いだして考えさせることが、ある程度できた。アンケート結果からは、パネルの使用と発問が、生徒の気持ちを授業に向けさせ、集中力も切れにくくしていることが分かった。また、生徒が前向きに楽しく授業に参加しているという意識も読み取れた。授業中も、発問に対して生徒からの積極的な発言が多く出るなど、授業が活性化するのを感じた。

また、授業で学んだことを踏まえて文章で記述させる問題に対して、生徒はおおむね適切に解答することができた。授業中に考えたり意見を発表したりする活動を行うことで、生徒の記憶に残り学習内容の定着につながったものと考えられる。

(2)課題

生徒は「自ら進んで学べた」という意識をもっているものの、実際は課題追究的な学習においても教師と生徒とのやりとりが中心で、教師が主導する場面が多かった。話し合いをもとに意見をまとめて発表させるなどの活動を多く取り入れ、生徒同士の学び合いを促し、主体的に学ぶ態度を育てたい。

また、生徒は、基本的事項の理解度が高く、授業で学習したことについて記述することはできたが、やや難度の高い問題やグラフから読み取ったことを理論的に説明する問題には苦労している様子が見られた。知識の確実な定着と活用が課題であると同時に、今後は、学んだことを踏まえて自分の考えを適切に表現できる力を付けさせたい。